



一五

- (一) 山王七社大事 さんのうしちしやだいじ
 - (二) 三種神祇卷 さんしゆのじんぎのみき
 - (三) 神祇卷秘訣集 じんぎかんひけつしゅう
 - (四) 御流靈氣集 ごりゅうれいきしゅう
 - (五) 内宮外宮口伝 ないぐうげぐうひでん
 - (六) 日本紀当流卷 にほんぎとうりゅうのみき
- (一) 図書館所蔵(以下同じ)、貴重書二二四号。本文巻頭に「一付山王七社大事」とある。墨付六丁。六点のうち唯一、蓮の上の蛇身の絵が描かれているが、絵の下部の字は本文と異筆であるため、ともに後筆と思われる。真言を交えて、山王社に關わる秘伝・縁起が記されている。
- (二) 貴重書二二五号。本文巻頭に「三種神祇卷」、その小見出しとして「一神爾御事、一寶劍御事、一内侍所御事」とある。墨付二十九丁。「神祇」の字をあてているが、三種の神器それぞれの由緒に關して記されている。
- (三) 貴重書二二六号。本文巻頭に「神代卷秘訣第二」とある。墨付二十六丁。巻頭の記述から(二)との關連がみてとれる。
- (四) 貴重書二二七号。本文巻頭に「乾御流神道靈氣私記」とある。墨付二十四丁。御流神道の護摩行法などに関する記述がある。
- (五) 貴重書二二八号。本文巻頭に「伊勢天照太神宮内宮外宮口傳」とある。墨付八丁。奥書に「慶長三年三月吉日」とある。仏教的理解の立場から、

鳥居・社殿・三種の神祇等に関して言及している。また、外題は、正確には「内宮外宮口傳」であり、内容の連続する史料の存在も考えられる。

(六) 貴重書二二九号。巻頭に「日本紀當流目錄次第」とある。墨付三十二丁。奥書に、「于時慶長三年戊戌三月下旬傳授阿州板西郡原田莊神宮寺筆者広蔵示了」とある。様々な『日本書紀』注釈書の説が紹介されているところに本書の特徴がある。

※ ※

それぞれ写本一冊。縦一六・六糎、横二〇・三糎。粘葉装。茶色表紙。表紙は茶染楮紙、本文は楮紙。白界九行。表紙の右下部に題簽で所蔵者の名と思われる「良意」とあり、その上部に朱で「十四之内」と記されている。

この「十四之内」の記述から、十四点で一揃いの書物であると考えられるが、残り八点の所在は分からない。また、六点のうち、(二)・(五)・(六)、および(二)・(三)・(四)がそれぞれ同筆。(五)と(六)の奥書にみえる記述から、これらの筆者は阿波国神宮寺の僧広蔵で、慶長三年に良意に伝授されたと思われるが、(二)・(三)・(四)は不明。

(松永航平)

【所収本】

- (二) (三) は『真福寺善本叢刊七卷 中世日本紀集』(臨川書店) 所収、平成十一年(一九九九)